

美しい風景が広がる日本の農村

日本の農村は、人々が農業や生活を営むなかで築き上げてきた美しい風景が広がっています。地域独自の地形を生かし、その地ならではの歴史や文化によって、さまざまな美しさが生まれました。

水田や畑など土地利用と農村生活が織りなす、パッチワークのような眺め。水田といった二次的な自然と生きものがつくる自然景観。稲作のはさ掛けなど、歴史・伝統文化の継承が生む風物詩。そして、散居村のように農業・自然・生活・文化が凝縮された農村景観……。どれも自然と農業、また生活が調和し、統一感ある美しい空間です。

いま、その美しさが広く注目を集めています。美しく、もっと豊かな農村へ――。

美しく、 もっと豊かな農村へ



富山県砺波平野に広がる美しい散居景観。畷れ川・庄川による水没を避けるため、高台部分に建てられた家々が点在し、その家を季節風から守るため、屋敷林を植えたことで独特の景観、散居村が生まれた。
写真：富山県提供ほか

▲写真：土肥尚彦氏撮影「砺波平野散居村」〈(社)農村環境整備センター発行「農の営みがつくれた日本の景観」〉



美しい町づくりで交流進む！ 京都府 美山町



京都市の北にある美山町は「日本一のかやぶきの里」といわれ、約270棟のかやぶき民家が残っています。町は「美しい町づくり条例」を制定し、かやぶき民家を生かした交流が盛んです。2004年の来町者は70万人。1993年には京阪神の美山町ファンを中心に「かやぶきの里美山と交流する会」が発足し、美しいかやぶきの里を守ろうと「美山町かやぶきの里保存基金」も積み立てられているほどです。

交流によって移住者も増え、農作物は加工品開発・販売へと展開したほか、アンテナショップの出店など次々と産業や共生が生まれてきました。



花咲き誇る美しい集落 沖縄県 読谷村



沖縄本島の中部西海岸に位置する読谷村、座喜味集落は約1600人の集落です。ここには、世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つ、「座喜味城跡」があります。そして、集落内には美しい花壇が数多く点在し、1年中、集落のいたるところで季節の花が咲き誇っています。そこには、「座喜味環境を守る婦人の会」の女性たち16名の活動がありました。会長の松田敬子さん(78)は話します。

「終戦後、暮らしを立て直すグループとして発足しました。最初は、戦争で大木がなくなった。緑を増やしたら住み良い集落になるんじゃないかって木を植えました。そして、12~3年前にはゴミ拾いです。「いいムラにしよう」とあたりまえのことでした。不思議にきれいにすると、そこにゴミを捨てる人はいなくなり、じゃあ、花を植えようとなって……。最近では花木を植えています。集落みんなで作業します。ゴミ拾いもいまでは、知らぬ間に誰かがやってくれるほどになりました。」

世界遺産を抱える美しい集落。それは、半世紀以上かけて住民自らがつくりあげたものだったのです。

TOPIC 景観法が農村を守る

都市、農山漁村などの良好な景観の形成を促すため、「景観法」が施行されたことに伴い、農林水産省では「景観農業振興地域整備計画」を策定し、美しい農山漁村づくりを支援しています。

具体的には、農業振興地域において、住民参加による地域の景観診断や合意形成などを踏まえ、守るべき地区の景観計画をつくります。それに基づいて、景観に配慮した土地利用のあり方や土地改良施設の保存、ほ場整備などを検討し、景観保全を推進した整備を実施していきます。

